

最初、「核兵器が使われると人類の存続が危ういのでこれから国家間で話し合って核兵器を無くしていこう」と思っていたが、今の世界はそんな悠長なことを言っている状況ではないと、ガツンと食らった。核実験等の被害は今も世界中で進行しており、加えて原発の被害も後を絶たない。種々の局面で各が運動に取り組んでいるが、方向は同じなので世界的規模で手を結べる。

また、国々の他国に対する評価を直接聞けてよかった。いくつかの国の医師の発言からの印象を、以下に述べる。南米諸国はアメリカから完全に決裂した、カナダはアメリカ路線と別路線の二股をかけている（お隣さんでさえ）、欧州は世界の良識である、日本は経済力というバットをもった少年だ……。その中でも、「欧州の国々はお互いの対立が無くなったわけではない、ただ、国家間の争いを戦争という形ではなく話し合いという形で解決しようとするようになった」という言葉が最も印象に残っている（これって、日本国憲法に書いてある！）。この考え・実践を全世界に広げればいいのだ。互いの強い対抗意識を、戦争でなく、スポーツという形で競うのがいい、サッカーのワールドカップのように。

何よりも「社会運動が世の中を変えていっている」という気概に燃えた世界の医師たちの active な姿勢に元気づけられた。某島国の政治家は自分の出世を優先して（一部例外も）国民のために体を張っていない。ひとりひとりが主人公として、政治（家）を、社会を、歴史を動かさねばと感じた。

さらに、教会で、民族・宗教を超えていろいろな人たちが世界の平和をという一致点で集い、平和を願う歌をみんなで歌ったことはいい体験だった。

最後に。はだしのゲンの英語版“BAREFOOT GEM”全巻（10冊）を読むためにリュックに背負って持って行った。重かった。新幹線と飛行機の中で読破しようとしたが、1巻しか読めなかった（笑）。重すぎる中身だ。フィリピンの青年医師に贈呈した。